

⑯ 日本国特許庁(JP)

⑰ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭60-190865

⑤ Int. Cl.⁴
E 03 D 9/00
13/00

識別記号

庁内整理番号

6572-2D
6572-2D

⑬ 公開 昭和60年(1985)12月18日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 排泄尿飛散防止器

⑲ 実 願 昭59-79240

⑳ 出 願 昭59(1984)5月29日

㉑ 考 案 者 伏 見 宏 二 小平市上水南町1丁目11番12-4

㉒ 出 願 人 伏 見 宏 二 小平市上水南町1丁目11番12-4

明 細 書

1. 考案の名称 排泄尿飛散防止器

2. 実用新案登録請求の範囲

小便器の内側周辺の形状に合わせて形成した、L字形辺の枠(1)に、網(2)を張りつけて、ブラシ(3)を植えた立面形辺(4)と底面形辺(5)の係合する箇所を、支承軸支(6)して形成した本体に係止具(7)を取りつけて、小便器の内側へとりつけて使用する排泄尿飛散防止器。

3. 考案の詳細な説明

この考案は、小便器の内側の形状に合わせて形成したL字形辺の外側枠の全面に、網を張設し、ブラシを植えつけた立面形辺と、底面形辺の係合する箇所を、支承軸支した本体に、先端をまげた張着足の係止具を取りつけて、小便器の内側周縁に張着して使用する排泄尿飛散防止器に関するものである。

従来の小便器は、陶器、又は、プラスチック等で作製されたその硬い表面に、直接放尿したので尿は激突し飛散して流失し、その一部は玉飛沫と

なつて遠方へ飛び散り、周辺の床、壁、着衣、履物等に付着するので、悪臭の原因となり不衛生であり、非常に不愉快である。

本考案はその欠点を除くために考案されたものである。

これを図面について説明すれば、

小便器の内側の周辺に合せて形成したL字形辺の枠(1)の立面形辺(5)と、底面形辺(6)の全面に、細かい網(2)を張り、ブラシ(3)を植えつけた本体の各、辺の係合する箇所を、脱着、折曲自在に支承軸支(6)して取り扱いを容易にした本体に、先端を曲げた張着足を多数設けた、係止具(7)を、小便器の内側周縁に張着する排泄尿飛散防止器である。

本器を、小便器の内側周縁に、張着足の先端を滑動しながら押止し張着して使用すると、全体がブラシ及び、細かい網の弾性体で構成されてあるので、放尿はブラシと網により、分流減圧し、衰勢し、消勢消音して他に飛散することなく流失する。

従つて、飛沫を完全に防止出来るので、衛生的

で安心して使用出来る。

形状が小便器の内側周辺に合わせて形成してあるので、洗滌管より流出する洗滌水が、全体に降りかかり易く洗滌出来るので、常に、清潔が保たれ、又、受尿面積が広く形成してあるので、使用間隔を損うことがない。

今日迄、使用してきた小便器の形態では、排尿の飛散を防ぐことは困難である。

通常の設定の便所では、飛散して付着するのは肉眼では発見出来なかつた。又、寸時の事でわすれられている。然し、他人との混合した尿が着衣などに付いていることは、非常に不潔感で、不愉快な事はない。

本考案は上記の欠点を、全面的に解決した環境衛生上具備しなければならない物である。

本考案の実施態様として、次の如きことが出来る。

- イ 係止具(7)を吸盤にて取りつける。
- ロ 係止具(7)を磁石にして取りつける。
- ハ 係止具(7)を底面形辺の裏側へ取り付けて、

小便器の排水口内へ張着する。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案の斜視図

第 2 図は使用斜視図

第 3 図は他の実施例を示す説明図

第 4 図は他の実施例を示す説明図

第 5 図は他の実施例を示す説明図

(1)は枠 (2)は網 (3)はブラシ (4)は立面形辺

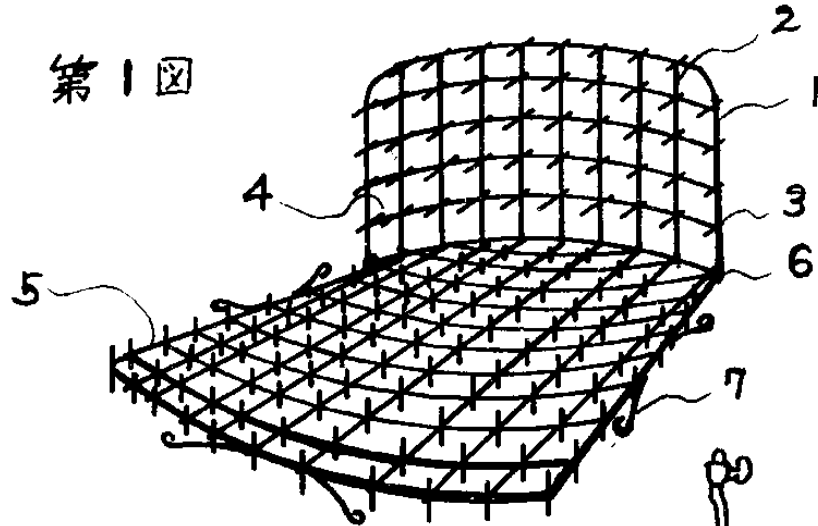
(5)は底面形辺 (6)は支承軸支箇所 (7)は係止具

実用新案登録出願人 伏 見 宏 二

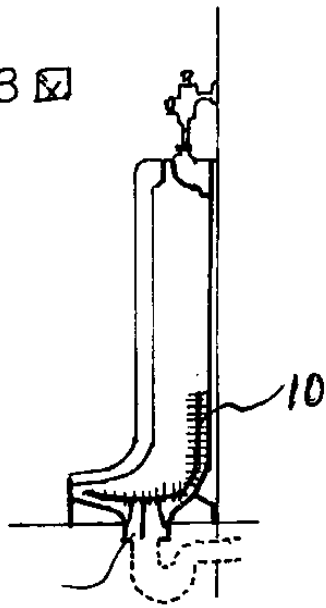
面

面

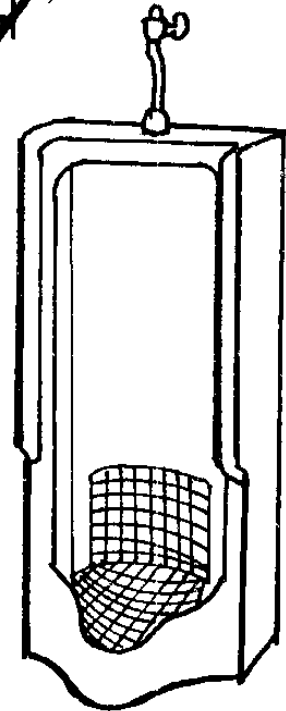
第1圖



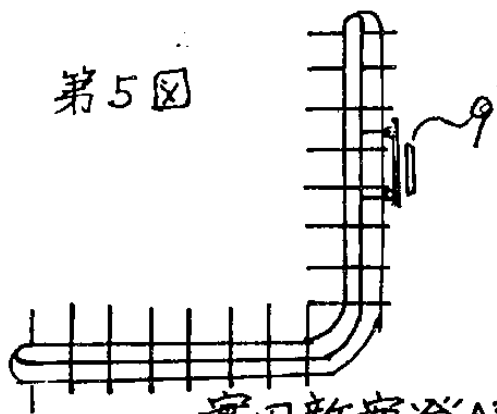
第3圖



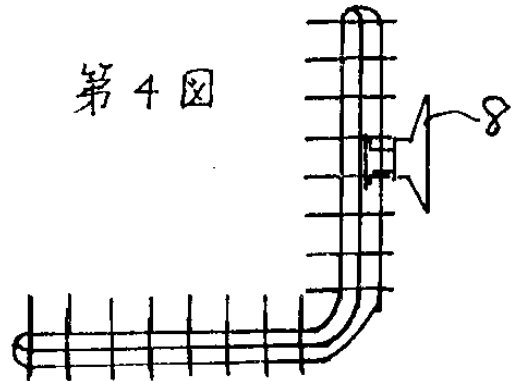
第2圖



第5圖



第4圖



實用新案登録出願人 伏見宏二

645 1909 5